

編集後記

二〇一八年三月に開催した、当センター主催公開講演会「日本の夜の公共圏―スナックと大衆文化」では、首都大学東京教授の谷口功一先生をお招きし、現在のスナックを巡る状況について御講演いただきました。また、コメンテーターの立教大文学名誉教授・自由学園最高学部学部長の渡辺憲司先生には、江戸時代の夜の遊びとの比較を通し、スナックについて鋭い指摘をいただきました。先生方、またご参集いただいた皆様、ありがとうございました。

今後、五月二十六日開催の、日本近代文学会春季大会（於早稲田大学）では、「江戸川乱歩所属資料の活用による探偵小説研究」のパネル発表が予定されています。当センターの資料なども活用し、資料保存の方法、雑誌の編集と出版、探偵小説の再定位、セクシャリティ表象など、様々な角度から進められた諸研究です。どうぞご参加下さい。

なお、当センターでは乱歩関係の様々な資料をゆつくり御覧いただけるように少し母屋内部を改装し、新たに展示室を設けました。過去の『大衆文化』やクリアファイル、一筆箋などの

販売も展示室内で行います。乱歩が暮らした居住空間での観覧を、楽しんでいただけましたら幸いです。

さて、今回の『大衆文化』には、谷崎潤一郎の小説「私」を中心にした金子明雄氏の論考「〈天才〉と〈犯罪者〉のあいだ―大正期谷崎作品の人物造型をめぐる―」、論者の新資料発見の経緯や、遠藤の執筆背景を記した杉本佳奈氏の「遠藤周作の新発見資料「アフリカの體臭」について」、芸能関係雑誌『明星』に掲載された連載小説の利用についてまとめられた阪本博志氏の「一九五〇年代における雑誌『明星』の連載小説とそのメディアアタイアップ展開（付・一九五〇年代『明星』連載小説一覧）」、前号に引き続き、乱歩の同性愛に関する読書メモの翻刻として、丹羽みさと氏の「家蔵同性愛関係書目録 2」を掲載致しました。大衆文化に関する様々なアプローチが展開されている各論を、どうぞお楽しみ下さい。（N）